

表題	水稲「森のくまさん」の移植期と栽培特性	機関	農業研究センター 農産園芸研究所
<p>概要： 「森のくまさん」は移植期の早晩により出穂期、成熟期が移動する。5月中旬～7月初頭移植の範囲では生育、収量、品質に甚大な障害はみられないが、早い移植では品質低下や倒伏の危険があり、遅い移植では低収となり易い。これらの性質は「ヒノヒカリ」に類似する。</p>			

研究のねらい

極良食味の水稲品種「森のくまさん」について、移植期を変更したときの生育、収量及び品質の変動を調査し、「森のくまさん」の移植期の検討の資料とする。

研究の成果

1. 「森のくまさん」は、移植期の早晩によつての出穂期及び成熟期を移動することが可能である。ただし、出穂期及び成熟期の移動幅は、移植期の早晩幅より小さい。
2. この性質は、「ヒノヒカリ」に極めて似ており、各移植期とも「ヒノヒカリ」に比べて1日～稀に2日遅い出穂となる。
3. 稈長は、標準的な移植期（6月18日～25日移植）と比較して、早い移植で長く、遅い移植で短い。また、6月5日移植は5月15日移植より倒伏し易い。なお、「森のくまさん」は、「ヒノヒカリ」より倒伏がやや少ない。
4. 収量は、標準的な移植期と比較して、早い移植期で多く、遅い移植期で少ない。この傾向は「ヒノヒカリ」と同様である。収量構成要素については、両品種ともに移植が早いほど粒数が増加し、千粒重が減少する傾向にある。
5. 玄米品質は、総じて「ヒノヒカリ」と同等かやや良く、移植期による違いは少ないが、両品種とも5月15日移植では心白・乳白がやや多く、検査等級が低下し易い。
6. 以上のように、「森のくまさん」を5月中旬～7月初頭に移植した場合、生育、収量、品質に甚大な障害はみられない。
7. ただし、早い移植ほど多収となり易い反面、5月15日移植では品質低下、6月5日移植では倒伏の危険がそれぞれ大きく、逆に遅い移植では目立った障害はないが、生育量が小さく、低収となり易い。

普及上の留意点

1. 本試験は比較的地力が高い条件で行った。地力が低い地域では、本試験結果より生育量が小さくなることに留意する。
2. 「森のくまさん」は、「ヒノヒカリ」同様穂いもちに弱いため、いもち病防除を徹底すると共に、特に早植えにおいてはカメムシ類の防除に留意する。
3. 収穫適期は、一般に成熟期より数日早いことに留意する。

表 1 移植期と出穂期、成熟期

	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)					成熟期 (月/日)				
		H8	H9	H10	H11	平均	H8	H9	H10	H11	平均
森のく	5/15	8/13	8/17	8/ 8	8/11	8/12	9/28	9/26	9/18	9/20	9/23
	6/ 5	8/20	8/20	8/19	8/22	8/20	10/ 6	10/ 5	9/30	10/ 4	10/ 4
まさ	6/18	8/27	8/26	8/23	8/26	8/26	10/12	10/18	10/ 7	10/12	10/12
さん	6/25	8/30	8/29	8/27	8/30	8/29	10/17	10/20	10/12	10/17	10/17
	7/ 2	9/ 2	8/31	8/29	8/31	8/31	10/18	10/27	10/16	10/17	10/20
ヒノ	5/15	8/12	8/16	8/ 6	8/ 9	8/11	9/27	9/24	9/17	9/18	9/22
ノ比	6/ 5	8/19	8/19	8/18	8/21	8/19	10/ 5	10/ 3	9/30	10/ 3	10/ 3
ヒ較	6/18	8/26	8/25	8/22	8/25	8/25	10/11	10/18	10/ 7	10/12	10/12
カ)	6/25	8/29	8/28	8/26	8/29	8/28	10/16	10/20	10/12	10/17	10/16
リ	7/ 2	9/ 1	8/30	8/28	8/30	8/30	10/17	10/27	10/16	10/17	10/19

表 2 移植期と稈長及び耐倒程度

移植期 (月/日)	「森のくまさん」		「ヒノヒカリ」	
	稈長(cm)	倒伏程度	稈長(cm)	倒伏程度
5/15	96	0.4	97	0.6
6/ 5	98	1.7	100	1.8
6/18	91	0.8	92	1.2
6/25	92	1.1	92	2.2
7/ 2	84	0.2	86	0.3

注) テ-列はH8～H10年の平均。H11年は台風第18号による倒伏が甚大のため除外した。
倒伏程度：成熟期に判定。0(無)～5(甚)に数値化した。

表 3 移植期と収量、収量構成要素及び品質

	移植期 (月/日)	収 量 (kg/a)					初数 (千/m ²)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	検査等級 (1～9)
		H8	H9	H10	(H11)	平均				
森のく	5/15	63.0	55.8	65.7	(54.3)	61.5	41.0	73.4	21.6	3.3
	6/ 5	58.5	54.8	67.7	(46.8)	60.3	41.4	71.2	21.2	2.8
まさ	6/18	57.7	50.0	62.1	(47.5)	56.6	41.4	66.4	21.6	3.5
さん	6/25	54.8	51.6	55.1	(40.0)	53.8	37.5	64.2	21.6	3.3
	7/ 2	56.4	53.8	54.7	(39.2)	55.0	37.2	71.7	22.4	3.3
ヒノ	5/15	65.2	54.5	61.9	(58.2)	60.5	40.9	70.1	21.3	3.7
ノ比	6/ 5	58.7	53.9	58.6	(43.6)	57.1	41.2	69.8	21.1	3.0
ヒ較	6/18	58.6	48.5	61.6	(45.9)	56.2	42.4	65.0	21.4	3.3
カ)	6/25	60.7	46.0	56.8	(43.5)	54.5	38.9	68.0	21.9	3.5
リ	7/ 2	56.2	53.2	53.2	(39.1)	54.2	35.5	69.7	22.1	3.0

注) テ-列はH8～H10の平均。H11年は台風第18号の影響が大きいため平均から除外した。

参考) 試験条件

試験圃場：熊本県農業研究センター農産園芸研究所 精密水田
 育苗方法：箱育苗(水田苗代)、播種量：乾籾100g/箱、育苗日数：30日
 栽植様式：条間30cm×株間15cm(22.2株/m²) 1株3本手植え
 施肥量：基肥0.5、穂肥(出穂前20日)0.3、晩期穂肥(出穂前10日)0.2(窒素成分 kg/a)